

第7回日中韓大学院生フォーラム報告書

Report of the 7th China-Japan-Korea Graduate Student Forum



Date September 26 (Fri) – 29 (Mon) , 2014

Venue China University of Geosciences, Beijing



筑波大学生命環境系
Faculty of Life and
Environmental Sciences
University of Tsukuba



開かれた未来へ。

筑波大学
University of Tsukuba



第7回日中韓大学院生フォーラム報告書

Report of the 7th China-Japan-Korea Graduate Student Forum

Date September 26 (Fri) – 29 (Mon)

Venue China University of Geosciences, Beijing

目次

CONTENT

1. 日中韓大学院生フォーラム概略	
/ Overview of China-Japan-Korea Graduate Student Forum	1
2. 日中韓フォーラム参加報告書/ Report of CJK Graduate Student Forum	4
・学生リーダーからの報告/ Report from Student Leader	4
・実行委員会からの報告	
/ Report from Representative of Executive Committee	6
・サポートチームからの報告/ Report from Support Team	10
・参加学生からの報告/ Report from Participated Students	15
3. 受賞者一覧/ List of Prize Winner	36
4. 行程表/ Schedule of the 7 th CJK Forum	37
5. 第7回派遣団名簿/ Delegation Member List	38
6. 謝辞/ Acknowledgement	39

1. 日中韓大学院生フォーラム概略

Overview of China-Japan-Korea Graduate Student Forum

日中韓大学院生フォーラムの歩み

今日、日中韓大学院生フォーラムと銘打っている本プログラムは、当初日中大学院生フォーラムとして発足した。今回 7 回フォーラムの会場となった中国地質大学も筑波大学同様、このフォーラムの立ち上げ時からの参加校であり、これまでもフォーラムにおいて中心的な役割を果たしてきた。

第 5 回フォーラムでは韓国忠南大学が初めて参加し、初の韓国勢の参加となり、日中から日中韓へと拡大して現在のフォーラムに至る。

無事成功裏に終わった今回のフォーラムも、フォーラム全体としての経験の蓄積の上に成り立つものである。今後もこのフォーラムが国境を超えた研究交流と友好の場であり続けることを願い、ここに簡単なながらフォーラムの歩みを記す。

第 7 回学生リーダーグループ

The History of CJK Graduate Forum

The forum today called “China-Japan-Korea Graduate Student Forum” was firstly established as “*China-Japan* Graduate Student Forum”. The CUGB, the host university for the 7th forum has also played important role in the forum.

After 2 rounds of forum, Chungnam National University(South Korea) joined this forum. Then the forum was renamed as “*China-Korea-Japan* Graduate Student Forum”.

The 7th forum was also over in success. I think this success stands on accumulated know-how obtained through previous forum. I hope this forum will be a good place not only for exchanging ideas on research, but also for developing friendship across the border.

7th forum student leader group

フォーラム略歴

- 2007年3月 北京大学、清華大学、中国地質大学、中国農業大学、北京師範大学、中国科学院大学院(GUCAS)、Institute of Geographic Sciences and Natural Resources Research (CAS)の6大学1研究所と筑波大学の間で、学生交流を含む大学間協定が交わされた。この協定が契機となって、その後の日中の大学間で交流が開始した。
- 6月 GUCASの副学長の筑波大学訪問時に、大学院生のフォーラムに関する構想が提案される。
- 8月 先の構想をもとにフォーラムが本格的なフォーラムの企画が開始される。当初のねらいは日中間の相互理解と学問的な情報共有にあった。規模が拡大した現在でも Academic な交流としての側面と、学生同士の交流の場としての側面として、この精神は受け継がれている。ここで二国間の持ち回り開催などの基本的枠組みが決定された。
- 2008年3月 プレフォーラムが北京市において開催される。
- 10月 第1回フォーラムが筑波大学にて開催される。学生主体のフォーラムという基本的な性格は、第1回から綿々と続いている伝統である。
- 2009年 第2回フォーラム開催 (於 中国地質大学)。
- 2010年 第3回フォーラム開催 (於 筑波大学)。
- 2011年 第4回フォーラム開催 (於 中国地質大学)。
- 2012年 第5回フォーラム開催 (於 筑波大学)。
- 大変喜ばしいことに、このフォーラムから韓国忠南大学が参加することになった。これに伴いフォーラム名も日中韓大学院生フォーラムとなった。
- 2013年 第6回フォーラム開催 (於 忠南大学)。
- 2014年 第7回フォーラム開催 (於 中国地質大学)

History of the forum

- March 2007 University of Tsukuba (UT) and six Chinese universities and one institute including Peking University, Tsinghua University, China University of Geosciences, China Agricultural University, Beijing Normal University, Graduate University of Chinese Academy of Sciences (GUCAS), Institute of Geographic Sciences and Natural Resources Research (CAS) set an agreement including student exchange.
- June 2007 Vice-president of GUCAS visited UT. At that time outline of the forum was fixed.
- August 2007 President of CUGB visited UT to discuss actual plan of the forum. Initial aim was mutual understanding and exchange academic information among universities. It was decided here to have the first forum in UT, and second one in CUGB.
- March 2008 Pre-forum was held in Beijing.
- October 2008 The first forum was held in UT.
- 2009 2nd forum at CUGB
- 2010 3rd forum at UT
- 2011 4th forum at CUGB
- 2012 5th forum at UT
- Since this year's forum, Chungnam National University has joined and forum was re-named as "*China-Japan-Korea*" Graduate Student Forum. It was our great pleasure to have new friend in this forum.
- 2013 6th forum at Chungnam National University (Korea)
- 2014 7th forum at CUGB

2. 日中韓フォーラム参加報告書

Report of CJK Graduate Student Forum

学生リーダーからの報告 Report from Student Leader

今回の第7回日中韓フォーラムについての学生リーダーとしての報告

第7回日中韓大学院生フォーラムの筑波大学学生事務局です。ここでは、学生リーダーの立場として、この日中韓フォーラムの報告をさせていただきます。

学生事務局は、平本、羽尾、渡邊の3名で運営していました。この3人が集まったのは5月の末、そしてすぐに最初の仕事となる参加者募集に向けて慌ただしく動き出しました。今回の



日中韓フォーラムは中国地質大学がホストであったため、参加者決定後の私たち筑波大学学生事務局の大きな仕事は筑波大の参加者の取りまとめと、地質大との連絡、そして練習会の運営に大きく分けられます。ここではこの3つに沿ってご報告いたします。

筑波大学からは、選抜を経て生命環境科学研究科の日本人大学院生11名(学生リーダーを含む)、留学生5名、そして生命環境学群の3つの学類からそれぞれ1名ずつの、計19名の学生が参加しました。参加者はフォーラム前には顔合わせ、3度の練習会、直前の打合せの計5回集まる機会がありましたが、基本的に必要な提出書類や参加手続きの案内はメールでのやり取りを通じて行いました。参加者の皆さんはとても協力的で、概ね期限は守っていただいたと思っています。

次に、中国地質大との連絡については、先生方の協力も頂きつつ、何度も確認の連絡を行いました。地質大に伝えるべき情報や出すべき書類は滞りなく行えていたと思っています。ただ向こうとのやり取りでは、ホスト側で直前まで決まっていなかったことも多く、その影響で直前まで情報がなかったり、慌ただしくなったりすることがありました。それは来年私たちがホスト側となる際の参考にしたいと思います。一つ、私たちの反省点としては、発表形式の確認が取れておらず、去年と同じように口頭とポスターの両方があると思って準備を進めていたところ、実は口頭発表のみで、何名かの人には9月に入ってスライドを用意して頂いた点が挙げられます。これについても来年への反省として生かしたいと考えています。

また、7月から9月にかけて、筑波大では日中韓フォーラム参加者で3度練習会を開催しました。これはお互いの発表内容を理解することと、発表の練習を目的とし、Randeep 先生、Wood 先生、Taylor 先生に参加していただき、有意義なコメント・ディスカッションを頂きました。フォーラム参加者の中には国際学会はもとより国内の学会も発表したことがない学生も複数いましたが、3度の練習会を通して内容はもちろん、スライドの作り方・発表の仕方も目に見えてどんどん上達していくことが出来ました。その甲斐もあり、フォーラムの最後には、最優秀賞の名をはじめとして多くの筑波大の参加者が受賞することが出来たと考えています。

フォーラム期間中はホストである中国地質大の学生の皆様には、空港に着いてからの送迎・宿泊や食事・学会の日程・懇親会と全てのことについて面倒を見ていただき、素晴らしい4日間を過ごすことが出来たこと、大変感謝しています。また、それと同時に、このフォーラムを開催するには多くの学生の協力と連携が必要不可欠であることを痛感しました。来年の第8回日中韓大学院生フォーラムは筑波大学での開催となることが決定しています。そして私たちは中国・韓国、あるいは国内の他大学の学生をお迎えする立場になります。来年度はより多くの筑波大生が参加し、このフォーラムを更に発展させていければと考えています。

最後になりますが、私たち学生事務局は白岩系長、団長の江面研究科長、常にアドバイスを下さった楊先生、学生サポートチームの事務の皆様を初め、多くの方々のご支援のもとに成り立っていました。私たちに関わって下さったすべての方にお礼申し上げます。

第7回日中韓大学院生フォーラム 学生リーダー
平本潤、羽尾周平、渡邊祐太



実行委員会代表からの報告

Report from Representative of Executive Committee

第7回日中韓大学院生フォーラム報告

平成26年9月26日から29日にかけて、中国北京、中国地質大学（China University of Geosciences）の中国地質大学国際交流センターで、第7回日中韓大学院生フォーラム（7th China-Japan-Korea Graduate Student Forum 2014）が開催された。日本からの参加大学は、筑波大学、九州大学、北海道大学、神戸大学、新潟大学、中国からは北京大学、清華大学、中国地質大学、中国農業大学、中国科学地理院、中国科学院研究生院、韓国からは忠南大学、高麗大学であり、日中韓三か国から計13校の参加があり、約200名（うち教職員約40名）参加があった。筑波大学からは、大学院生16名、学類生3名、教職員7名が派遣された。

このフォーラムは、地球、生物、生物資源専門分野を超えた大学院生が、学生主体で国際会議の運営を行い、プレゼンテーション技術を向上させ、国際交流と国際理解を図ることを目的とするフォーラムである。今回は、中国地質大学の大学院（Graduate School, China University of Geosciences）の大学院生が運営主体となってフォーラムが実施され、Life、Environment、Resources 三つのセッションを振り分け、各会場で二日間にわたり行われた。フォーラム全体では、中国地質大学と中国科学院エコ環境研究センターによる2件のキーノートスピーチ、127件の口頭発表が行われた。

9月28日の夜に行われたフェアウェルパーティーでは、筑波大学から日本伝統の折り紙での折り鶴を披露して交流を深める効果を得られた。同時行われた授賞式では、筑波大学から（一等賞5名、二等賞3名、三等賞5名）計13の賞を獲得し、筑波大学生の研究水準、英語でのプレゼンテーションスキルの高さを示す結果となった。

中国地質大学の心のこもった歓迎と運営、また美味しい中国料理のおかげで、参加された皆さんは終始にこやかであり、日中韓の学生同士、教員同士、スタッフ同士の交流も盛んに行われ、実りの多いフォーラムとなった。来年2015年の第8回日中韓大学院生フォーラムは、9月16日～19日に筑波大学（University of Tsukuba）で開催されることは9月28日の日中韓参加者委員会で決定された。

今回の日中韓大学院生フォーラム円満で実りのある大会となれたのは関係者の皆様のご協力ご支持のおかげである。白岩善博生命環境系長をはじめ、江面浩研究科長、丸山幸夫学群長、日中韓大学院生フォーラムに同行された教職員らの全面的なバックアップのもと、学生リーダーグループはフォーラム参加ポスター作成から最後の報告会まで協力し合い、見事なチームプレで、本フォーラムの成功に大きく貢献した。また、事務方の生命環境支援室中国サポートチームのおかげで今回のフォーラムでも事務業務がスムーズに進められるとともに、フォーラム期間中、会場においても中国事務所北京オフィスのスタッフとと

もに、写真撮影、交流案内をしてくれたことによって、貴重な場面の記録と交流促進に大きな役割を果たしてくれた。

最後、最も忘れてはいけないことは、フォーラム発表学生計三回の発表練習会にアドバイスしてくれた先生達の適切な指導と厳しい訓練のおかげで、学生達の英語プレゼンテーションスキルがあがり、良い結果に繋がったことである。

第7回日中韓大学院生フォーラム筑波大学実行委員会代表
楊 英男（生命環境系准教授）



第7回日中韓大学院生フォーラム参加者の集合写真



学生リーダーグループ生命環境支援室の中国サポートチームの打ち合わせ



フォーラム発表学生の発表練習会



発表会場の発表と質疑応答の様子



フェアウェルパーティーで筑波大学の学生指導の下で参加者が折鶴を折っている風景



発表学生と教職員の集合写真

サポートチームからの報告 Report from Support Team

第7回日中韓大学院生フォーラムのサポートに関する報告

生命環境エリア支援室 中国連携サポートチーム
正岡 裕子、高橋 未来、水代 祐子、大坪 龍介

私たち中国連携サポートチームは、生命環境系における中国連携事業の支援を目的として、生命環境エリア支援室の教務・研究支援・会計・総務から1名ずつ集まって構成しています。2014年度開催の第7回日中韓大学院生フォーラムでは中国地質大学がホスト校だったため、私たちのチームが支援する機会をいただきました。

1 目的

本フォーラムは、学生が主役となって研究発表や大学間交流等を行う国際イベントです。今回、私たちは、下記2点を目的にサポート活動を進めました。

- ・事務的な調整や処理を担い、参加学生に発表や交流の準備・実行に集中してもらう
- ・学生リーダーグループを支援し、参加学生に対するリーダーシップを発揮してもらう

2 主な活動と所感

私たちは、本フォーラムで主に下記のサポート活動を行いました。それぞれの活動には主担当を決めましたが、個人プレーで進めるのではなく、情報共有・相談・協力をしながらチームで進めることを心掛けました。

2.1 学内組織との調整、手続き（主担当 水代祐子）

昨年度のサポートチーム担当者と連絡を取り、事務的な調整事項や対応について漏れのないよう引き継ぐとともに、実行委員会代表の楊先生や学生リーダーグループ、国際室と連絡を取りながら、ホスト校である中国地質大学への記念品を選出・発注しました。

また、フォーラムが終了した今、報告書の製本のため、本部の総合事務センターと連絡調整を行っています。

その他にも様々な学内組織との調整事項がありましたが、その都度、サポートチームや楊先生、学生リーダーグループと情報を共有し、連携して進めることで、円滑に業務を遂行することができました。

2.2 外部組織との調整、手続き（主担当 正岡裕子）

旅行会社から見積りを取得し、航空券やバスの手配を行いました。限られた予算のなかで信頼できる旅行会社を探したり、また全体で 25 名という大所帯で移動するため細かな調整や確認をしました。

また、留学生の査証の取得に係る書類の準備も行いました。中国の査証について調査していくなかで、国籍によっては取得が難しい場合があることが分かり、全員無事に査証を取得できたと聞いたときはほっとしました。

普段から出張手続きの一端を担っていたのですが、支援室に書類が届くまでにこんなにも手間と時間が掛かっているということを実感しました。改めて先生方の業務量の多さ、フットワークの軽さに感服しました。

2.3 会計処理、予算管理（主担当 高橋未来）

会計としての仕事は、フォーラム参加に向けて必要となる参加者の航空券代や、記念品代等の会計処理と、配分された予算の管理です。

会計処理については、納品されたもののチェック、請求書等の必要書類の確認、会計システムへの金額等のデータ入力等を行いました。予算の管理については、系・研究科・学群それぞれからフォーラムに配分された予算をどう使用するか、チームや支援室のなかで相談しながら決定していきました。

支援室で会計業務を担当して間もないなかでフォーラムの会計処理と予算管理を任せられ、責任も感じましたが、チームメンバーや上司のサポートもあり、何とか終わりが見えてきたところです。

本プロジェクトに携わったことで、ひとつのプロジェクトを作り上げる過程を実感することができ、とても貴重な経験となりました。会計担当以外の職員や先生、学生の皆さまと関わることで視野も広がったように思います。

2.4 スケジュール管理、フォーラム随同行（主担当 大坪龍介）

私たちのサポート活動を細かいタスクに分割し、各タスクの担当者を決定するとともに全体の進捗管理を行いました。試行錯誤したタスクもありましたが、チーム全員でどうにか成し遂げることができました。

また、学生や教員に随同行してフォーラムに参加し、プレゼンテーション等の撮影、教授陣会議への出席などを行いました。フォーラムでは、本学の学生全員が素晴らしいプレゼンテーションを行い、結果として 13 もの賞を獲得しました。パーティーでは学生全員で折鶴のパフォーマンスを披露し、中国・韓国・日本の学生と交流を深めました。本学の学生が 1 つのチームになったように感じたのと同時に、他大学の学生と積極的に関わろうとするオープンな姿勢を感じました。事務職員として価値ある体験をさせていただきました。

3 おわりに

私たちは今回の活動のなかで、教員や学生と一緒に仕事を進める機会、海外に接する機会を与えていただきました。新しい経験もあり、チーム全員が一步成長できたのではないかと考えています。

また、活動を進めるにあたり、生命環境エリア支援室の諸先輩方から貴重なアドバイスをいただくとともに、楊先生や学生リーダーグループにも打ち合わせ等で相談をさせていただきました。振り返れば、私たちサポートチーム自身、多くの方に支えられることで活動を遂行できたと感じています。チーム一同、皆さまに深く御礼申し上げます。

来年度は本学がホスト校となります。今回の私たちの活動や経験が、来年度またそれ以降のフォーラムに係る活動の礎になれば幸いです。

以上



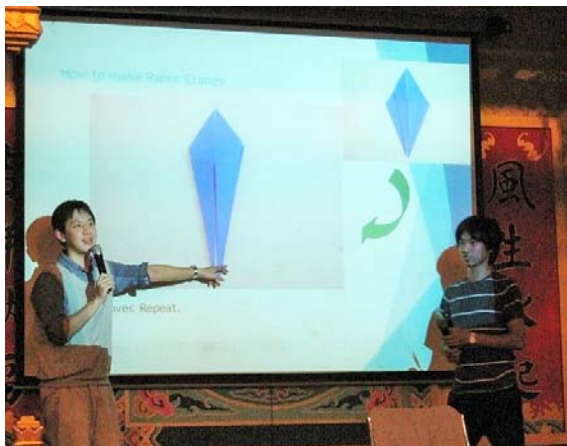
2014年度中国連携サポートチーム



楊先生、学生リーダーグループとの打ち合わせ



学生によるプレゼンテーション



学生による折鶴のパフォーマンス

第7回日中韓大学院生フォーラムの支援報告

筑波大学北京オフィス
現地職員 梁 偉

平成26年9月26日から29日にかけて、第7回日中韓大学院生フォーラムが中国北京の中国地質大学で開催された。私は筑波大学北京オフィスの現地職員として、27日と28日の二日間、この活動を支援した。支援の主な仕事は、写真撮影と交流案内であった。

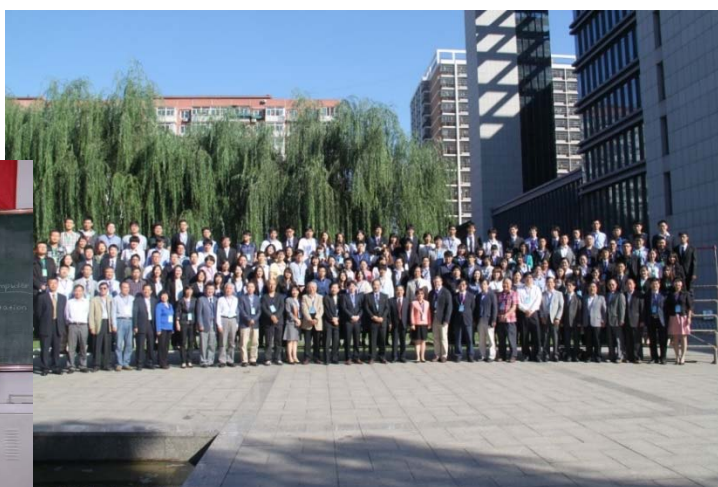
筑波大学は19名の学生を派遣した。彼らは幾つかのセッションに振分けられ、27日と28日の午前中に各会場で発表した。二人の学生が同時時間帯に発表する場合があるので、全員の発表の様子を撮るために、私と支援室の大坪さんは事前に手分けをした。写真を撮る時、発表者は自分の研究結果を自信満々に英語で流暢に発表することに私は感動した。心の中で「皆、よく頑張ったね。私も頑張ります。」と思っていた。

28日の夜、中国地質大学で盛大な送別会と授賞式が行われた。発表結果について、筑波大学の学生たちは非常に実力が高いことが写真を撮る時に伝わってきて、13名が受賞した。皆が期待する通り、良い結果になった。筑波大学の学生が賞杯を受け取る時、私も誇りに思って、とても嬉しかった。送別会の途中で、筑波大学の学生は会場の全員に紙で鶴を折る方法を教えた。学生はフォーラムの発表で活躍したばかりではなく、他国の学生や現地の案内者などとも交流を深めていた。

他国の友達を作り、他国の文化に触れることができるのは有意義な体験と思った。筑波大学の学生さんには、この体験を生かして、今後も益々活躍してほしいと思う。私もこの二日間を通じて、新しい友達を作った。皆さんと一緒に頑張ってきて、とても楽しかった二日間を過ごした。素晴らしい体験をさせて頂き、ありがとうございました。

以上

発表会場の様子



参加者全員の集合写真

参加学生からの報告 Report from Participated Students

氏名 (所属 学年)	/ Name	Page
リーダーグループ/ Leader Group Students		
平本 潤 (地球科学専攻 M1)	/ Jun Hiramoto	16
渡邊 祐太 (生物科学専攻 M2)	/ Yuta Watanabe	17
羽尾 周平 (生物圏資源科学専攻 D1)	/ Shuhei Hao	18
生命環境学群/ Undergraduate Students		
岡崎 拓未 (生物学類 B4)	/ Takumi Okazaki	19
畑中 美帆 (生物資源学類 B4)	/ Miho Hatanaka	20
岡田 千明 (地球学類 B4)	/ Chiaki Okada	21
生命環境科学研究科/ Graduate Students		
川端 祐佳 (環境バイオマス共生学専攻 M1)	/ Yuka Kawabata	22
栗野 智帆 (生物科学専攻 M1)	/ Chiho Kurino	23
佐々木 規衣 (生物資源科学専攻 M1)	/ Norie Sasaki	24
佐藤 文香 (生物資源科学専攻 M1)	/ Ayaka Sato	25
牧下 彩乃 (生物資源科学専攻 M1)	/ Ayano Makishita	26
村上 生馬 (生物科学専攻 M1)	/ Ikuma Murakami	27
諸橋 香奈 (生物科学専攻 M1)	/ Kana Morohashi	28
Nazia Muhsin (生物資源科学専攻 M2)		29
高橋 唯 (地球科学専攻 M2)	/ Yui Takahashi	30
Juan Miguel Recto (生物科学専攻 M2)		31
Mishma Silvia Stanislaus (生命産業科学専攻 D1)		32
Pirapan Panthanuvong (生命産業科学専攻 D3)		34
史 青 (生物科学専攻 D3)	/ Shi Qing	35

日中韓フォーラム振り返り



生命環境科学研究科地球科学専攻
博士前期課程 1 年
平本 潤

今回の第 7 回日中韓大学院生フォーラムは私にとって今夏の大きなウェイトを占めるものになりました。それは自分自身にとって初めての学会、しかも国際学会の口頭発表だということもありますが、それに加えて学生リーダーとしての活動も忘れられません。

日中韓フォーラムの存在は研究室の先輩が参加していたので学類生時代から知っていたのですが、その当時はまさか自分が学生リーダーの一人として活動するとは思ってもおらず、そのため今年の夏前に指導教官からの勧めがあったときは大変驚きました。周りの後押しもあって仕事を引き受けたものの、いざ蓋を開けてみると、何もわからない自分にとっては荷が重いことが多く、早く終わってほしいと思っていたのが本音です。

発表の準備も、英語で一つの内容を発表するのは初めてのことで、当初は用意した原稿を読むので精いっぱいでした。そして周りの発表者のレベルも高く、とても焦ったことを覚えています。筑波大では全部で 3 回の練習会が開催され、その練習会で頂いた指摘はどれも有意義なものが多く、非常に貴重なものを得ることが出来ました。

そんなこんなで当日はあっという間にやってきました。フォーラム期間中は今まで話す機会の少なかったフォーラムの他の参加者と交流する機会が多く持て、多くの仲間を得ることが出来ました。また、ホストである中国地質大学の学生の皆様には快く歓迎して頂き、とても感動・感謝しています。人生初の学会発表となった本番も、今の自分のベストを尽くすことが出来たと思っており、その結果賞もいただくことが出来ました。また、筑波大の多くの仲間が受賞できたこと、自分のことのように嬉しく思っています。総じて、行く前は早く終わってほしいと思っていたフォーラムでしたが、いざ行ってみると本当に楽しく、有意義なものとなりました。

フォーラム全体を通して振り返ってみると、学生相談役の楊先生、私以外の学生リーダーの 2 人、大坪さんを中心とした大学事務の方々、練習会に来てくださった先生方を始め、多くの方々に支えられての活動だったと今思っています。そして一緒にフォーラムに参加した多くの仲間がいたからこそ、私にとってこのフォーラムが有意義なものになったのだと思います。関わって下さった方々全員に感謝しています。

日中韓フォーラムは来年筑波大での開催となります。その時には今年得た経験を活かし、ホスト側として活動にかかわっていければと思っています。

第7回日中韓大学院生フォーラムを終えて



生命環境科学研究科生物科学専攻
博士前期課程2年
渡邊 祐太

「渡邊君、今年もリーダーをやらないかね」と私の担当教授であり、日中韓フォーラムのオーガナイザーでもある白岩善博先生から声かけ頂いたのは、まだ新学期も始まったばかりの2014年4月の初めだったと記憶している。昨年、韓国デジョンで

開催されたフォーラムでリーダーグループとして働いた経験もあったが、かねてからこのフォーラムにもう一度参加したいと思っていた。私の答えは「はい、是非」だった。

2度目の運営とは言え、リーダーグループを含め参加者は昨年から全員入れ替え、開催校も韓国忠南大から中国地質大へと変わり、何もかも今年は今年のやり方に合わせての手さぐりだった。昨年の自分のメールをさらい直し、タスクを洗い出し、参加者への連絡、練習会や壮行会の企画、開催校との連絡と事務サイドの仕事は例年通り多岐にわたった。これらの仕事は生命環境事務の大坪様をはじめ、リーダーグループ顧問の楊先生、一緒に働いたリーダーグループの羽尾さん、平本さんの協力がなければ何一つとしてうまくいかなかったと思う。特に今年は事務方との風通しがよく、会計処理やバス・お土産手配などサポートチームの方々には大変お世話になった。リーダーグループとして働くことへの責任や仕事の負担は、その醍醐味と表裏一体であると思う。純粹に参加者としてフォーラムに参加する以上のものが得られると思うからこそ、今年もリーダーを引き受けた。

半年近い期間をかけて準備をしても、フォーラム自体は4日間、発表はそのうち2日であるから、まったくあっという間である。フォーラム期間中は筑波大学の発表者をできる限り見て回った。手前味噌ではあるが、やはり3回の発表練習の成果は絶対に表れていると感じた。これに関してはRandeep先生、Wood先生、Taylor先生のご指導の賜物であると感じている。しかし、私が読者に強調したいのは、私が英語の能力だけを言っているわけではない、ということである(もちろん全員の語学力は練習会を通じて向上しているとは思いますが)。筑波大学の学生の発表を見回るうちに、彼らが必死に伝えようとしている姿や質問に向かい合おうとする姿を各所で見た。このことはそれだけで十分誇れるものだと思う。またそれが多数の表彰を頂くことができた、という結果・周囲からの評価につながっているとも思う。このフォーラムに真摯に向かい合ったことで得られたものは、参加者一人一人にとって必ず今後につながるものであると考えている。

私事ではあるが、2回目にして初めて賞をとることができた。もちろん表彰のためにやってきたわけではないが、やはりこのような評価を頂けたことは素直にうれしい。来年4月には就職を予定しており、これが最後のチャンスただけに尚更である。これまでお世話になった方々に最高の形で恩返しができると思う。チャンスを下さった白岩先生はじめ、派遣団の団長江面先生、研究科の関連する先生方、事務のサポートチームの皆様、リーダーグループの羽尾さん、平本さん、顧問の楊先生、すべての方々に感謝し、ここに筆をおく。

第7回日中韓フォーラムを終えて

生命環境科学研究科生物圏資源科学専攻

博士後期課程1年

羽尾 周平



今回の日中韓フォーラムを無事に終わることができて、まずは一安心しています。私はこのフォーラムを通して多くのことを経験し成長することができました。もちろんプレゼンテーション能力の向上はその中の一つです。練習会に参加し指導して下さったランディープ先生、マット先生、テイラー先生、楊先生、康先生にはとても感謝しています。先生方の指導のおかげで私たち筑

波大生の発表は見違えるように良くなったと感じました。練習会の成果は、筑波大生の受賞した賞の多さが物語っており、この結果は誇るべきものであると思っています。また、練習会への参加はプレゼンテーションの質の向上だけでなく、英語でのコミュニケーション能力も向上させてくれました。その結果、私はフォーラムで多くの学生と交流することができました。そして、今回のフォーラムで、最も私を成長させてくれたものは、学生リーダーグループとしての経験そのものです。フォーラムに参加するまでの長い道りは決して簡単なものではありませんでした。数々のミーティング、筑波大の参加者及び中国本部とのやり取りなどを行い、ホスト国ではありませんがフォーラム運営の大変さを知ることができました。同じ学生リーダーである渡邊さん、平本さんと共にこのフォーラムを作り上げることができてとてもうれしく思います。また、数々のアドバイスや中国との連絡を助けて下さった楊先生、大坪さんをはじめとするサポートチームの皆様にはとても感謝しています。

最後に、来年の第8回日中韓フォーラムは筑波大学が開催校になります。私は来年も筑波大学に在籍しているので、今年の実験で得たフォーラム運営のノウハウを来年に活かせればと思います。

7th 日中韓大学院生フォーラム 参加レポート

生命環境学群生物学類

4年

岡崎 拓未



2014年9月26日から28日の期間、北京の中国地質大学にて、日中韓大学院生フォーラムが開催されました。日本、中国、韓国の大学院生が参加するイベントで、日本からはおよそ30名の学生が参加しました。大学院生が企画、運営、発表を行うイベントですが、筑波大学から

は生命環境学群の各学類から1名ずつが参加しました。海外の学会以外で英語で発表する機会は多くはない為、分野外の人に向けて英語で発表する機会としていい経験になったと思います。発表は27日の午後、28日の午前中に行われました。

発表の終了後は現地の学生に中国の有名な観光名所である「頤和園」に案内して頂きました。広大な庭であり湖が有名な世界遺産で、中国的な建築やそれにまつわる歴史等を学ぶことができました。(右写真はその中の建物です。)



また28日の夕食時には表彰式を兼ねた懇親会が行われました。懇親会ではテーブルに各国の学生が分散して座り、それぞれの文化や生活について話しました。また、懇親会の中で、日本の学生は日本の伝統である折り紙の中で鶴の折り方を紹介するという出し物を行いました。私はスライド担当として前に出てメインの発表者をサポートしていましたが、各テーブルの筑波大生だけでなく日本の他の大学の生徒も教えている様子が見られた上に海外の学生からの評判もよく、苦労はしましたが無事行うことができよかったですと感じました。

このフォーラムでは全日程を通して海外の学生とは英語での交流を行いました。私は英語が得意ではなく不安もありましたが、ある程度の会話ならなんとか行うことができました。来年度は筑波で行われるということでしたので、国際交流を行いたい方は是非参加してみてください。

第7回日中韓大学院生フォーラム報告書

生命環境学群生物資源学類

4年

畑中 美帆

準備段階

練習会が3回もあるためゆっくり準備できるだろうと高をくくっていたが、毎回怒涛のようにダメ出しをされその改善で手一杯であった。学会で専門家に対して話すのと、今回のように専門外の学生に対して話すのでは想像以上に勝手が異なり、説明の量が大幅に増えるのだということを思い知った。

英語を話す先生からの質問・意見が全く聞き取れず、リスニングの力量不足を痛感した。



当日の発表

練習会と研究室におけるしごきのおかげで、本番では原稿を見ずにスムーズに話すことが出来、自分としては満足のいく発表となった。しかし、案の定質疑応答が上手くいかず、ひとつの質問にしか答えられず悔しい結果となった。

フォーラム中の学生との交流

質疑応答は出来なかったものの、中韓の学生が気さくに話しかけてくれるのでこちらも臆せず話すことが出来た。意外と向こうの学生さんも私と同程度に英語が出来ない人もいるということが分かったので、それでも何とかなるのだという謎の自信を得ることが出来た。

全体を通して

今回のフォーラムで①英語で口頭発表をする、②専門外の人に話す、③発表スライドについて沢山の先生方、先輩方からアドバイスをいただく、④英語の力量不足を実感する、という経験を4年生のうちに得ることが出来たのは本当に幸運なことだったと思う。この経験を今後の研究生生活、発表等に生かしていきたい。



図 ボーイング 767-300 のバインディングウィングレットと北京郊外

第7回日中韓大学院生フォーラムの感想

生命環境学群地球学類

4年

岡田 千明



今回、日中韓大学院生フォーラムに参加して、他の学生のプレゼンテーション能力と研究の完成度の高さを実感した。

私にとって、日中韓大学院生フォーラムが初めての学外発表の機会であり、今まで発表を行う機会がほとんど無かったため不安要素が多かった。加えて、英語による口頭発表であることや参加者のほとんどが私の専門分野以外の方であったことも大きな壁になっていた。しかし、事前練習を通して powerpoint の作り方やプレゼンテーシ

ョンのやり方について細かく指導していただいたことで、練習前と比較して大幅に改善され発表に対する自信もついた。

フォーラム中は中国地質大学の学生スタッフが配慮してくれたので、不自由無く過ごすことが出来た。発表では、他分野の人の発表でもプレゼンテーションがとても工夫されていて分かりやすい発表が多く勉強になった。また、中国や韓国の学生の中には非常に流暢な英語を話している学生もおり、質疑応答でもスムーズに的確な回答をしている人もいたので、今後もっと英語力を向上させたいと思った。

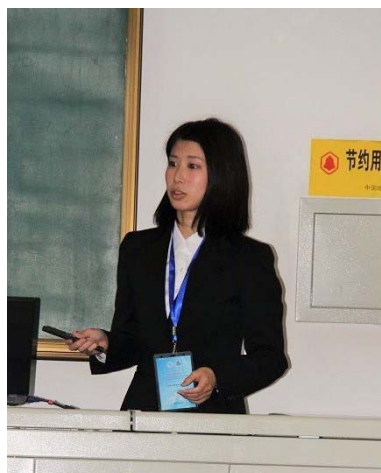
私自身は、卒業研究があまり進んでいなかったため自分の研究の結果よりも専門外の人にも理解しやすい発表を心がけた。最終的に、**First Prize** をいただくことが出来、多くの先生方や学生に評価していただいたのが非常に嬉しかった。今後も発表する機会はあるので、今回いただいたアドバイスを元により分かりやすい発表が出来るように努力したいと思う。

最後に、プレゼンテーションに関する指導を行って下さった先生方、現地でお世話を下さった職員さんや運営スタッフ、一緒に参加した学生の皆さんに感謝致します。ありがとうございました。



7th JCK graduate student forum 感想

生命環境科学研究科環境バイオマス共生学専攻
博士前期課程 1年
川端 祐佳



わたしは、今回初めてこのフォーラムに参加させていただきました。今まで自分の研究について口頭発表をした経験はなく、いきなり英語での発表ということで不安でした。しかし、準備をするにあたって、学生リーダーの方や諸先生方のご協力もあり、本番はあまり緊張せず、自信を持って発表に臨むことが出来ました。また、本フォーラムでは学生同士の交流も活発であったので、違う国、違う背景で同じ分野の研究を行っている学生と交流できたという点でも、私にとって意義あるものであったと思います。さらに、今回 The Third Prize を頂くことができました。英語でのスピーキング、および人前で話すことに苦手意識があった私にとって、海外の地で発表し評価されたこの経験は、

新しい自分を発見するに至り、一生ものになると感じました。最後に、このフォーラムに参加できたことを大変うれしく思います。ありがとうございました。



日中韓フォーラムレポート

生命環境科学研究科生物科学専攻
博士前期課程 1年
栗野 智帆



今回は第7回日中韓フォーラムに参加することができ、とても貴重な体験をすることができました。発表準備の段階では練習会を開いて先生やメンバーからアドバイスをたくさん貰い、発表の仕方について、また自分の研究について考え、向きあうことができました。このようなフォーラムで発表することも、英語で発表することも初めてだった私にとっては大きなチャレンジでしたが、やり遂げた今では達成感でいっぱいです。また、多くの優秀な学生の発表を見たことで、英語もプレゼンも研究も頑張らねば、と刺激を大いに受けました。現地では、日本、中国、韓国の他大学院生と交流し、つたない英語ながらもコミュニケーションをとることの楽しさを実感しました。特に、

中国地質大のスタッフの学生には大学構内、観光、さらにはスーパーとつきっきりで案内をしてもらい、限られた滞在時間をめいっぱい楽しく、快適に過ごすことができ感謝しています。来年は筑波で開催されるとのことで、次のフォーラムに参加する学生が、私が今回感じたのと同じく、もしくはそれ以上に、いい経験になったと思って貰えるような時間を過ごす手伝い如果能したら、と思います。



第7回 日中韓大学院生フォーラムに参加して



生命環境科学研究科生物資源科学専攻
博士前期課程1年
佐々木 規衣

このフォーラムがあること自体は知っていましたが、最初は全く参加する気がありませんでした。しかし、指導教官に勧められ、参加申し込み締め切り日に要旨を提出し、参加することになりました。私はこれまで国際学会はもちろん外部の発表会に参加したことがなく、緊張そのものでした。今回、ポスター

発表の予定でしたが、ひょんなことから参加者全員オーラルになって、ぎりぎりまでスライドの準備をするのが大変でしたが、参加してみても正解でした。練習会では先生方をはじめ、一緒に参加する方々から意見をもらうことができ、スライド作成技術がこのフォーラムを通して上達した気がします。



発表は、という正直、課題が残っていると思います。卒研の内容を発表したのですが、考察が甘い部分、実験の問題点等々、練習会でも指摘されましたが研究の内容を考え直す時間ももう少し必要だったのではないかと思います。ゼミではないことを考えなければなりません。自分の中で研究について確固としたストーリーと考察が出来ないと、専門外の人には分かってもらえないな、と改めて感じました。私は修士からテーマを変えたため、今後そういったことに気を付けて研究を進めていきたいと思います。今回、筑波大の多くの学生が賞をとることが出来ました。これは3回の練習の機会があったからだと思います。嬉しかったのですが、多くの参加者が賞を獲っている中で賞を獲れなかったのは若干

図1 28日午後 Summer Palace

悔しかったです。来年リベンジしたいと思います。

連絡事項が直前に来たりして、もどかしい思いをすることがありましたが、今回の参加者の数を見てびっくりしました。中国の学生スタッフは本当に大変だったと思います。テレビや新聞では日本の中国や韓国との関係があまり良くないことを耳にすることが多いですが、少なくとも今回そういったことは感じませんでした。特に開催国である中国の学生スタッフはみんな親切でした。来年つくばで開催されることが決まっています。自分の発表スキルを上げると同時に受け入れにも関わりたいなと思っています。今回知り合いになった中国、韓国の学生と来年つくばで会えることを楽しみにしています。参加できて本当に良かったです。スライドの指導をしてくださった Randeep 先生、Taylor 先生、Matthew 先生、楊先生、そして一緒に参加した筑波の学生の皆さん、ありがとうございました。



図2 受賞者のみんなおめでとう



図3 会場の中国地質大学

第7回日中韓大学院生フォーラムから感じたこと



生命環境科学研究科生物資源科学専攻
博士前期課程1年
佐藤 文香

今回、参加学生として選抜していただいたことを感謝いたします。また、3回の練習会や参加にあたってご尽力いただきました先生方と職員の皆さま、学生リーダー、そのほかの参加学生へ心の底より感謝しております。

フォーラムの核であった、口頭発表においては、日本人学生の長所、短所を感じました。長所としては、事前に準備し、

意見を真摯に受け止め、改善と練習を繰り返していたことです。他大学の学生の発表に比べ、分かりやすいストーリーの流れが作られており、練習をしてきたことをしっかりと感ずることが出来ました。短所としては、発表が分かりやすい分、質問が出ましたが、質問内容の意図が汲み取れない、的確にこたえられないなど英語の不慣れさが出ていました。質疑応答の準備、英語の上達をしなければならぬと感じました。私自身は、ポスターから口頭発表の変更によって、約3週間で修正をしなければなりませんでした。限られた時間のなかで、練習に付き合ってくくださった先生方に感謝しております。また、発表当日は、自分のデータファイルを本番の会場で確認することが出来ず、発表の最中にフォーマットの乱れ、グラフなどが無くなっていることに気づきました。崩れたままのデータでなんとか発表を取り繕い、言いたいことも言えず、非常に後悔の気持ちでいっぱいでした。回避できるトラブルだったにも関わらず、焦ってしまい、準備してきたことを活かせませんでした。結果的には、研究の内容、トラブルの中で対処した面を評価していただき、最優秀賞をいただくことができました。練習やアドバイスをいただいた先生方、励ましながら練習し合った参加学生の皆さんの存在があったこそその受賞であったと思います。

来年は筑波大学での開催のため、発表への参加、運営側として関わりたいです。今年、中国側の学生、先生方が準備してくださり、このようなすばらしいフォーラムを開催していただいたので、筑波大学での開催でも多くの学生、先生方に参加していただきたいです。また、相互の学生の交流の場として、充実した時間を設けたいと思います。今回の参加で交流を深めた学生と来年会えることを期待しています。また、ここでできた韓国、中国の学生、日本人同士の縁がまたどこかにつながることを楽しみにしています。

筑波大学の一員として参加し、お互いに刺激し合い、筑波大学生としての誇りを改めて感じました。また、英語を勉強してきたこと、研究に日々励んできたことや、さまざまな国からきた学生と交流する経験を積んできたことなど、今までの大学生活で築いてきたことが全てつながったような気持ちになりました。今回の経験をさらに自信にし、次のステップに進んでいきたいです。あらためて、フォーラムを通してサポートしていただいた皆さまだけでなく、研究面で指導していただいた先生方、英語を教えてくれた友人たち、準備がうまく進まない私を励ましてくれた友人たちに、心より感謝いたします。

日中韓フォーラムに参加して

生命環境科学研究科生物資源科学専攻
博士前期課程1年
牧下 彩乃



多くの参加者と同様初めての国際発表であり、私にとっては学内以外で行う初めての口頭発表でした。自分以外の参加者の発表を見て、言語の種類を問わずいい発表とはどういうものが分かったような気がしました。今回の会場は小規模で聞き手も多くはなかったのですが会場の雰囲気は感じ取れました。その雰囲気を発表している自分と一体化させることが大事だと思いました。私自身は反省点や改善点も多くあり、もっと勉強をし練習をし、次のチャンスがあればそこで悔いのないよう発表を行いたいと強く感じました。

北京では、中国地質大学の学生が色々と親切にサポートしてくださり、4日間問題なく過ごすことができました。構内のコンビニや近くのスーパー、世界遺産の頤和園（にわえん）などに私たちを案内してくださり、初めての土地も楽しく過ごすことができました。暖かい歓迎を受け本当に嬉しかったです。ありがとうございました。滞在中は他大学の方と話をする、いい機会になりました。筑波大生のメンバーとは、話したことがない人も多かったのですが4日間でこんなに仲良くなれるとは思っていなかったのも嬉しく思います。

中国地質大学のスタッフや各大学の先生方や関係者の方々、拙い発表を聞いてくださったみなさん、フォーラムの準備をしてくださったサポートチームの方、練習を見てくださった筑波大学の先生方、学生リーダーのみなさん、応援してくれた筑波大生のみんな、そして沢山ご迷惑をかけ面倒を見てくださった研究室のメンバーと先生方に感謝いたします。発表の機会を与えてくださって本当にありがとうございました。フォーラム自体は2日間と短いものでしたが、全体を通して参加しなければ得られなかった経験をすることができました。今回のフォーラムで感じたこと、得たことを今後の研究や学生生活に活かしていきたいと思っております。ありがとうございました。



Thanks to all of you!!

第七回日中韓フォーラム

生命環境科学研究科生物科学専攻
博士前期課程1年
村上 生馬



今回の北京で開かれた第七回日中韓フォーラムを通して、多くの貴重な経験をさせて頂き、自分自身成長することができたのではないかと感じています。私は元々英語を話すことが得意ではないので、苦手を克服するためにも今回のフォーラムには口頭発表で参加することを決めていました。本番に向けての3回の練習会において先生方にたくさんの助言を頂き、また友達や研究室の先輩の助けもあり、本番では今までで一番のプレゼンテーションをす

ることができました。質疑応答では、日本語で説明出来ることが英語で上手く表現することができず悔しい思いをしましたが、この点は今後の課題にしたいと思います。

また今回のフォーラムに参加を通して、プレゼンテーションはもちろん、その他の北京での生活も英語が必要不可欠でした。こんなに英語漬けの4日間はこれまでの人生のなかでは初めてでした。英語に苦手意識をもっていました、今自分が持っている英語力を最大限に使えば、英語でもコミュニケーションをとることができると感じられたことは今回のなによりの収穫です。今回のフォーラムをゴールにするのではなく、スタートと捉えて、今後さらに英語に取り組んで行きたいと思います。

最後になりますが、今回のフォーラムで御指導頂いた先生方、裏で支えてくださった関係書の皆様、共に過ごした大学院生と学群生の皆様には、心から感謝しています。ありがとうございました。



第7回日中韓大学院生フォーラムを終えて



生命環境科学研究科生物科学専攻
博士前期課程1年
諸橋 香奈

北京で過ごした4日間は、想像以上に得るものが多く、充実したものでした。見るもの、食べるもの、触れる文化、場所、すべてが新鮮でした。また、異なる国の人達との交流によって、異なる文化を知るだけでなく、日本について振り返るいい機会になったと思います。日本では普通であることが当たり前ではないということに気づかされ、自分の世界が広がったよう

に思います。さらに、今回中国の方と覚えたての中国語でコミュニケーションが取れたことが個人的にとっても嬉しかったです。片言でも中国語で伝えることで、距離も近づき、何よりも相手がとても嬉しそうにしていたことが印象的でした。ほとんどのコミュニケーションは英語ですが、こうしたチャレンジによってより仲良くなることができ、友達もたくさんできました。また、発表においても、中国語、韓国語での自己紹介をしたことは、こうしたフォーラムでしかできないことであり、いい思い出です。発表自体は、練習の甲斐あって自信をもって楽しんでできたように思います。ただ、英語で受け答えをする難しさを実感しました。しかし結果として、筑波大生の多くが賞をいただくことができ、自分もその一員として結果を出せたことを誇らしく思います。皆で団結し、お互いを称え合う、素敵な仲間に出逢えたことが一番の収穫です。

最後に、私は今回、現地の方々のホスピタリティーにすごく驚き、感銘を受けました。メディアやネットの情報だけでは知りえない、人の温かみに触れることができたように思います。この経験を受け、来年筑波大で行われるフォーラムで恩返しができればと思います。



(farewell party にて。地質大の方々と。)

The 7th China-Japan-Korea Graduate Student Forum

Graduate School of Life and Environmental Sciences
Agro-biological Resource Sciences and Technology
Master's Program 2nd year
Nazia Muhsin



Hello friends. Today I want to share my experience from the 7th China-Japan-Korea Graduate student forum. In one word, wow...It was great. I am honored to be a part of this forum. At the beginning, I was so nervous since it was my first opportunity to present my research at international level and also going to China first time. However, the student leaders of our University and all of our Sensei really worked hard on us to make this event successful. Even my co-participants all helped me to prepare. They all had been my great support. I really enjoyed the whole journey. During my presentation my friends came to cheer up me and all Sensei appreciate it. It's really means a lot to me. I have never expect such cooperation. During this occasion, I got opportunity to know other participants. Some become my good friend. I think most interest part was, I learnt how to make crane by paper. It's a Japanese culture to make origami. We learnt it to show it to other students of China and Korea. They all tried to make it with us and they also enjoyed it. The host was the students of China University of Geosciences, Beijing. I must say, we got a very warm welcome and hospitality. Some of the students of China become our friends. After the oral presentation, they took all us to the Summer Palace of Beijing. It was really a huge palace which is a great source of China history. We walked only 2 and half hours at the site of the palace yet there were so many things left to see.



The whole event had come to its end with a mesmerized farewell dinner party which was full of Chinese food and Chinese cultural show. That was outstanding performance. Next year, this event will be held at Tsukuba University. Please join us to make this event more successful than ever.

日中韓フォーラム感想レポート

生命環境科学研究科地球科学専攻
博士前期課程 2年
高橋 唯



今回のフォーラムへの参加は僕にとって非常にいい経験なり、得るものも多かったと思います。そして何よりも楽しかったと自信を持って伝えられます。拙い英語での発表や初めての座長もやっている間は必死ですが、今振り返ってみれば楽しかったなあとさえ思えてきます。一生懸命だったから楽しい。そんな経験を皆さんはお持ちだと思います。もちろん僕にもありますが、大学院生になってからは遠ざかっていた

ような気がします。このフォーラムで三日間を全力で駆け抜けたからこそ得られた思い出は、今回の経験とともにこれからの僕を支えてくれるものになると思います。



China-Japan-Korea graduate student forum report



Graduate School of Life and Environmental Sciences
Biological Sciences
Master's Program 2nd year
Juan Miguel Recto

My experience in the student forum was a little strange, and probably a bit different from other students. Right before the trip I got into a bike accident, bruising my face and breaking a tooth. The tooth in particular needed special attention and there was no time to get it in Japan. Thankfully a Chinese friend (Shi Qing) brought me to a dentist in Beijing, who was able to perform an emergency fix.

I was a bit surprised upon seeing Beijing. The city of Beijing is huge. Roads were wide and buildings were spaced widely apart. It was completely unlike Tokyo, which is both big and tight at the same time. The day of our arrival was quite foggy, and I initially thought it was smog until it cleared up the next day. Actually, Beijing was surprisingly clean considering the number of people living there. I was particularly amused by the double length buses that look like a cross between a bus and a train.

My favorite part about Beijing is probably the food. Apart from showing me to the dentist, Shi Qing also brought me to several of her recommended restaurants, and I got to try the fabled Kung Pao chicken and roast duck. Peking duck was particularly delicious and being able to try authentic Chinese cooking made me very happy.

During the forum I was very impressed by how students from our university performed. Many students did well in the practices, but it wasn't until the forum that I discovered just how good they were. The researches that impressed me the most were both from the University of Tsukuba: Chiho Kurino on how smells can affect *C. elegans* stress response and Ikuma Murakami on how exercise can improve muscle recovery after injury. I wasn't surprised that many students from Tsukuba took home prizes (Rightfully so!). Congratulations everyone!

Although we had several practices together, I cannot say I knew my companions that well before the forum. Over the course of the trip I got to know them better and make friends, which was great. My roommate Murakami-san turned out to be a really cool guy. Unfortunately I didn't have much opportunity to interact with students from China and Korea except for the farewell party when we were all saying goodbyes. That party was really fun, though I think may have drunk a bit too much of the super strong Chinese liquor and I can't remember much of what happened.

All in all it was a really great experience. I had a lot of fun, in fact much more than I expected. I hope to stay in contact with everyone and best of luck in the future!

Report



Graduate School of Life and Environmental Sciences
Bioindustrial Sciences
Doctoral Program 1st year
Mishma Silvia Stanislaus

The 7th CKJ Forum was an exciting breakthrough experience in my life at Tsukuba, Japan. 19 students were selected to take part in this Forum which was held in China and I was one of them. As it was my first time to attend an international conference abroad that was related to my academic field, I was totally pumped up but also nervous at the same time. The idea that we, the international students will not only be representing our own country but will also be representing Japan and our own University made us all the more anxious. When we reached China we were given a warm welcome and had great food and everything seemed to be fine until the day of the Forum. On the first day of the Forum was my oral presentation and when I saw the total number of students present which was over 100 of them my heart started pounding, but also had the confidence that it would be okay. My presentation went well and was able to deliver the information to the crowd successfully (and I should definitely thank the teachers who helped practice for the presentations). After finishing my presentations I was more relaxed and went around listening to other presenters. It was very interesting to get to know the umpteen numbers of research fields that exist and it aroused in me the feeling that acquiring knowledge is endless and there are a lot of things I am not aware of. This Forum therefore instilled the thought of widening my horizons and learning things outside my field as well. So, from the academic point of view this forum was definitely an intellectual undertaking and a very different experience to each one of us.

Apart from taking part in the Forum we were excited about being in a new country and it was the first time for all of us to go to China. So, we made some time for sightseeing and went to the summer palace in Beijing. It was a great place and we got to see quite a bit of Chinese culture. Since we have a lot of Chinese friends in Tsukuba we were happy to know about their culture and way of living. We also ate a variety of Chinese food which was certainly delicious and authentic. Yet again this venture showed us how different we are by culture but still human by nature.

Finally the finale was the awarding ceremony, and I am more than happy to have achieved the First prize for outstanding presentation award along with 9 other students. The credit of my achievement definitely goes to my Advisor, Prof. Yang and the way she trains her students. The numerous numbers of presentations we give in our lab and the vigorous training really helped me give my best at the forum and the result was fruitful. I am also very glad that 13 students from University of Tsukuba received awards that show the high level of training imparted to us that helped us achieve the same.

I am really grateful to the committee that selected us and gave us the opportunity to be a part of this forum and gain such a memorable experience. Also, would like to extend my heart filled appreciation to all the teachers and officials of University of Tsukuba who have supported us, trained us and been with us; and also not

to forget the student leaders for their constant care and support. Finally I would like to thank all the staff, officials, teachers and students who helped us in China. This Forum was indeed one of the best academic experiences in my life at Tsukuba. I am looking forward to being a part of the forum next year and to return the favour as a host University.



University of Tsukuba group at the CKJ Forum



Prof. Yang Yingnan and I with the award©

Report of 7th China-Japan-Korea Graduate Student Forum



Graduate School of Life and Environmental Sciences
Bioindustrial Sciences
Doctoral Program 3rd year
Pirapan Panthanuvong

Date: 26 – 29 September 2014

Place: China University of Geosciences, Beijing, China

China-Japan-Korea Graduate Student Forum (CJK forum) is the international student forum for graduate students from those three countries to share their academic experiences and nation cultures. In 2014, the 7th forum was hosted by China University of Geosciences in Beijing, China. This report will present how the forum was going on both in Japan before the presentation day and in China during the presentation days, as well as, how many experiences and impressions.

Since July until September, totally 19 graduate students of University of Tsukuba had started preparing and practicing the presentation. Once a month, there was the meeting for the power point practicing and checking by presentation expert and native speaker teachers as well. Time by time after the presentation was edited, the script was well prepared and the speaker fluently gave presentation, finally all of student presentations were ready to present.

On 26th September 2014, all 19 students accompanied with teachers and officer of University of Tsukuba were flying to Beijing, China. The forum host well welcomed our group with comfortable accommodation and convenience transportation. Moreover, there were some Chinese student staffs to lead our group to many places such as the cafeteria, meeting hall, presentation rooms and sightseeing place as well. In this forum, roughly calculated 120 students joined this forum in this year. The student presentation was categorized into three sections including RESOURCE, ENVIRONMENT, and LIFE. In open ceremony there were two key note speakers, Prof. Xiaoqiao Wan and Prof. Chuanyong Jing gave presentation about the Songliao Basin and Arsenic geochemistry, respectively.

There were many experiences and impressions in both academic and general. In academic, there were many research topics focused on environmental problems and resources sustainability, as well as, new finding or new knowhow about life researches. This forum gave a lot of opportunities to graduate students to open their knowledge and learn from other country researches, more or less to improve their presentation skill for international era in the future. In general, there were some experience of culture shock about food and life style. It was not a bad impression at all. It was a chance to learn and explore new experiences. The most impressive moment during this forum for me is the farewell party. Because every student was separated to sit in the same table with other students from different universities, I had a chance to join the table with the staffs of this forum. They were all Chinese but we had a good time and a lot of nice talk during that party. I learn on that day how frankly Chinese is and that it was very impressive and beautiful memory for me.

Finally, I would like to thank you for everybody who gave this good opportunity and precious experience for me. I am so happy and appreciate to be one of the students who joined this forum. Thank you very much.

Report for CJK forum

Graduate School of Life and Environmental Sciences
Biological Sciences
Doctoral Program 3rd year
Qing SHI

I was my honor to join this year September 26-28th China-Japan-Korea graduated student forum. We were able to see many students from different field all over the world and listen to their talk. Previously I only focused in biology especially plant physiology, but this time I learned more about geology, energy and also environment sciences. This not only broaden my horizon but also give me some new view of research, I learned that communication and



cooperation is of crucial importance during work and research, sometimes people from different field can give very good suggestions. During my presentation I got some very good questions, I was impressed by the academic quality of China University of Geosciences students. It was very lucky for me to get a price in this forum because everyone prepared so hard and their talk is quite impressive, I would like to

thank all participates and also our senseis and students for their kind help.

I was also able to make some new friends from other countries, it is very interesting to talk to them and learn their culture. This is a precious time in my life. It is a pity this will be my last time to join this forum. I hope this forum will continue in future and become better.



3. 受賞者一覧 List of Prize Winner

氏名	Name	受賞 Prize
Mishma Silvia STANISLAUS		1st Prize
岡田 千明	Chiaki OKADA	1st Prize
佐藤 文香	Ayaka SATO	1st Prize
史 青	Qing SHI	1st Prize
渡邊 祐太	Yuta WATANABE	1st Prize
Juan Miguel Recto		2nd Prize
諸橋 香奈	Kana MOROHASHI	2nd Prize
Nazia Muhsin		2nd Prize
平本 潤	Jun HIRAMOTO	3rd Prize
川端 祐佳	Yuka KAWABATA	3rd Prize
栗野 智帆	Chiho KURINO	3rd Prize
村上 生馬	Ikuma MURAKAMI	3rd Prize
高橋 唯	Yui TAKAHASHI	3rd Prize

4. 行程表

Schedule of the 7th CJK Forum

月日(曜日) Date	時間 Time	スケジュール Schedule
9月26日(金) 26 Sep. (Fri.)	6:40 6:50 7:00 8:30 10:35 13:25 15:30 16:30	筑波大学本部棟前ロータリー 集合 筑波大学本部棟前ロータリー 発 TX つくば駅臨時バス乗り場 発 成田空港 着 (第1ターミナル) 成田空港 発 (NH905 <ANA>) 北京首都空港 着 北京首都空港 発 ホテル到着・チェックイン 泊: The Geosciences International Conference Centre 受付 中国地質大北京キャンパス研究交流センター1階ロビー (the Academic Exchange Center, China University of Geosciences at Beijing (CUGB)) 18:30 Welcoming dinner (4F of CUGB)
9月27日(土) 27 Sep. (Sat.)	9:00 9:45 10:00 12:00 14:00 18:00	開会式 写真撮影 基調講演 (2人) 昼食 発表 (the Comprehensive Teaching Building, CUGB) 終了 夕食 ホテルへ 泊: The Geosciences International Conference Centre
9月28日(日) 28 Sep. (Sun.)	8:30 12:00 16:00 18:00	口頭発表 終了・昼食 学生は頤和園へ (派遣団教授陣会議 (the Academic Exchange Center, CUGB)) 閉会式・送別式 ホテルへ 泊: The Geosciences International Conference Centre
9月29日(月) 29 Sep. (Mon.)	10:00 11:00 14:45 19:15 20:00 21:20 21:30	チェックアウト・ホテルロビー集合 空港へ移動 北京首都空港 着 北京首都空港 発 (NH906 <ANA>) 成田空港 着 成田空港 発 TX つくば駅臨時バス乗り場 着 筑波大学本部棟前ロータリー 着

5. 第7回派遣団名簿

Delegation Member List

○参加学生 Students

氏名	/ Name	所属	学年
リーダーグループ/ Leader Group Students			
平本 潤	/ Jun Hiramoto	地球科学専攻	M1
渡邊 祐太	/ Yuta Watanabe	生物科学専攻	M2
羽尾 周平	/ Shuheii Hao	生物圏資源科学専攻	D1
生命環境学群/ Undergraduate Students			
岡崎 拓未	/ Takumi Okazaki	生物学類	B4
畑中 美帆	/ Miho Hatanaka	生物資源学類	B4
岡田 千明	/ Chiaki Okada	地球学類	B4
生命環境科学研究科/ Graduate Students			
川端 祐佳	/ Yuka Kawabata	環境バイオマス共生学専攻	M1
栗野 智帆	/ Chiho Kurino	生物科学専攻	M1
佐々木 規衣	/ Norie Sasaki	生物資源科学専攻	M1
佐藤 文香	/ Ayaka Sato	生物資源科学専攻	M1
牧下 彩乃	/ Ayano Makishita	生物資源科学専攻	M1
村上 生馬	/ Ikuma Murakami	生物科学専攻	M1
諸橋 香奈	/ Kana Morohashi	生物科学専攻	M1
Nazia Muhsin		生物資源科学専攻	M2
高橋 唯	/ Yui Takahashi	地球科学専攻	M2
Juan Miguel Recto		生物科学専攻	M2
Mishma Silvia Stanislaus		生命産業科学専攻	D1
Pirapan Panthanuvong		生命産業科学専攻	D3
史 青※	/ Shi Qing	生物科学専攻	D3

※私費参加/At private expense

○教職員 Faculty member & Staff

氏名	/ Name	役職
江面 浩	/ Hiroshi Ezura	団長・生命環境科学研究科長・教授
古久保 克男	/ Katsuo Furukubo	教授
DeMar Taylor		教授
張 振亜	/ Zhenya Zhang	教授
康 承源	/ Seung Won Kang	准教授
楊 英男	/ Yingnan Yang	世話人代表・准教授
大坪 龍介	/ Ryusuke Otsubo	事務職員

6. 謝辞 Acknowledgement

今回のフォーラム派遣にあたり、多くの方々にお世話になりました。ここでお名前を紹介するとともに、簡単ながら感謝の意を表したいと思います。

生命環境科学研究科(以下研究科)白岩善博系長には立ち上げ時から今回までフォーラム全体のとりまとめ、連絡でご尽力下さいました。また今回派遣団団長を務めて下さいました、江面浩研究科長をはじめ、同行された古久保・徳永・克男教授、張振亜教授、Taylor DeMar教授、康承源助教には大変お世話になりました。同行された先生方の中でも特に楊英男准教授には、リーダーグループ顧問として準備期間から長らくご尽力下さいました。リーダーグループ一同感謝申し上げます。一方、ご同行されなかった先生の中でも丸山幸夫学群長には学群生の派遣に全面的なご協力を頂きました。感謝申し上げます。またフォーラムに向けた発表準備では、Randeep Rakwal 教授、Matthew Christopher Wood 助教には、ご多忙な中 3 回の練習会に参加して頂き、ご助言を頂きました。

そのほか今回のフォーラムでは筑波大学事務の方々の全面的なサポートを頂き、特に学生の手が回りにくい事務の諸手続きにおきまして多大なご支援を頂きました。生命環境事務大坪龍介様はじめ、日中韓サポートチームの皆様、北京事務局の梁偉様にはお世話になりました。また本報告書をはじめとする書類の HP 掲載やその他提出物の窓口業務におきまして、系長室事務藤枝八千代様にご協力頂きました。また学外では開催校の中国地質大学スタッフその他関係するすべての方々に御礼申し上げます。

フォーラム参加者一同

Here we would like to show our great gratitude for Professor **Yoshihiro Shiraiwa** (Provost) for being an organizer from the first forum. We really appreciate Professor **Hiroshi Ezura** (Dean of the graduate school) and Professor **Furukubo-Tokunaga-Katsuo**, Professor **Zhang Zhen Ya**, Professor **Taylor DeMar**, Associate professor **Kang Seung Won** for their total support during the forum period. Especially, student leader group really appreciate Associate professor **Yang Yingnan** for her great effort for helping us as an adviser of student leader group. On the other hand Professor **Sachio Maruyama** (Dean of the three undergraduate courses) kindly let undergraduate student visit China. Even though they are quite busy, Professor **Randeep Rakwal**, Assistant teacher **Matthew Christopher Wood** kindly attended 3 presentation practices and gave us quite instructive advices to our presentation.

Not only the teachers above, for this forum many office staffs helped us, especially on some office procedure. We are sincerely grateful to **The Office Team for CKJ Forum** including **Mr. Ryusuke Otsubo** for their help. In Beijing, **Mr. Wei Liang** working in Beijing office of University of Tsukuba worked busy to take pictures during the whole time in forum days. And also we appreciate **Ms. Yachiyo Fujieda** for her help on managing HP for this forum and for being a clerk at the window for some documents. At the end of this forum, we sincerely appreciate all people who worked for this forum.

The delegation member of 7th forum

第7回日中韓大学院生フォーラム報告書
Report of the 7th China-Japan-Korea Graduate Student Forum
2014年12月10日発行

第7回日中韓大学院生フォーラム筑波大学事務局